

令和6年度第1回長浜市支え合いの地域づくり推進委員会 議事録

日時：令和6年7月19日（金）

午前10時30分～午後0時20分

場所：西黒田まちづくりセンター ホール

<出席者>

（委員）藤森忠夫、田部富子、吉村三津子、北川奈央、藤森泰志、藤田美恵子
山下憲昭、橋本文男、三段崎静子、伊藤英司、安原秀男、山岡伸次

（敬称略）以上12人

（地域包括支援センター）南長浜地域包括支援センター管理者 北川
神照郷里地域包括支援センター管理者 川崎
浅井びわ虎姫地域包括支援センター管理者 丸岡
湖北高月地域包括支援センター管理者 古脇
木之本余呉西浅井地域包括支援センター管理者代理 沢田

以上5人

（事務局）長寿推進課長：大塚、副参事：福永、係長：主馬・堤内、主幹：山岸、中川
健康推進課：富永
長浜市社会福祉協議会：福本

以上8人

<欠席者>

松井善典、伊吹清栄

（敬称略）以上2人

<傍聴者>

なし

次第：

1. 開会
2. 報告・説明事項
 - ・支え合いの地域づくり推進委員会とは
 - ・令和5年度 一般介護予防事業実績報告
 - ・第3期 地域福祉活動計画について
 - ・令和5年度 生活支援体制整備事業実績報告
3. 西黒田きんたろうサポート会の活動紹介
4. グループワーク テーマ：移動支援について

1. 開会

(長寿推進課長あいさつ) (省略)

(事務局)

- ・配布資料の確認
- ・本日の日程について説明
- ・委員交代（田部委員、藤森泰志委員のご就任、茂見委員の退任の説明）
- ・委員 14 人中 12 人出席で過半数の出席により会議は成立したことを確認
- ・傍聴者なし

(委員長ご紹介)

昨年度に引き続き、安原秀男様に委員長をお願いいたします。

(委員長あいさつ)

本委員会で、皆様と共に知恵を出し合っていただきまして、お力添えをいただき、地域の施策を考えていきたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2. 報告・説明事項

(委員長)

本委員会では、地域で元気に生活し続けられる、また、地域で活躍できる地域づくりを進めるために議論をする場であると思っております。

これからの支え合いの地域づくりに向けて、委員の皆様には各分野の代表として、活発にご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは次第に沿って説明をお願いいたします。

(事務局)

支え合いの地域づくり推進委員会とは・・・資料②により説明

令和 5 年度 一般介護予防事業実績報告・・・資料③により説明

(委員)

第 3 期 地域福祉活動計画について・・・資料④により説明

令和 5 年度 生活支援体制整備事業実績報告・・・資料④により説明

(委員長)

只今のご説明に関して、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(委員)

買い物支援については地域でも大変助かっているとの声を聞いています。移動販売車の停留所には地域で購入したベンチを設置し、利用者には交流の場として活用いただき喜んでいただいています。

す。

また、介護保険料の上昇抑制のために元気高齢者を増やそうと、私の居住自治会では、4月から毎週月曜日にみんなで集まって体操などを行っています。参加者は7～8人ですが、できることをしようと思っています。

3. 西黒田きんたろうサポート会の活動紹介

(委員長)

それでは、これから実際に地域で生活支援活動を行われている「きんたろうサポート会」の活動について、紹介をしていただきます。

このあとのグループワークにもつながる内容となっています。

それでは、よろしくお願いします。

(委員)

西黒田きんたろうサポート会の活動紹介・・・資料⑤により説明

4. グループワーク

(委員長)

では、続きましてグループごとに討論をしていただきます。

テーマは「移動支援について」です。

今ほど、「きんたろうサポート会」の取組みの1つとして紹介もありました。また、「移動支援」については、昨年度の本委員会でも、必要な支援・拡充すべき支援としてご意見がありました。

討論としては、既存の生活支援ボランティア団体等に行っている「移動支援」について、支援の取組みを継続していただくためにできることは何か。また、地域に新たに「移動支援」を担っていただけるような資源をつくるためにはどうすると良いか、について討論いただきたいと思います。

ー以降、各グループでの討議ー

(各グループの成果発表)

●Aグループ（発表者：委員）

同じ生活支援ボランティア団体のスマイルサポート西浅井は、移動支援で使用する車両を長浜市社会福祉協議会の木之本センターまで取りに行かれていることを聞きました。もっと気軽に使用できる車両があればいいと思います。

また、厚意で送迎をしようと思っても、事故等が生じた場合の責任について不安があり、支援につながりにくいという話もでした。

既存のデマンドタクシーなどを利用する場合では、その停留所までの移動が大変な高齢者もいるので、そういった人に対する支援も必要であるという話もでした。

●Bグループ（発表者：委員）

人に頼りたくないという思いを持っておられる人もいれば、近所にどう思われるか気にして支援を使いたくても使えない人もいます。地区によっては、自治会の回覧で支援の案内をされるところもあるので、気軽に活用するためには、そういった取り組みは良いと思いました。

報告にあったような生活支援ボランティアの取組みを継続していただくためには、その役割を担う後継者が必要ですが、世代によって考え方が異なるので、その世代を意識した声かけや働きかけ、助け合いが必要だと思います。そのため、世代ごとに合った支援、その取組を担う人や団体の検討をしていく必要もあるのではないかと意見が出ました。

●Cグループ（発表者：委員）

労働人口が減っているので、高齢者にその役割を担ってもらうことは大切なことだと思います。ただ、後期高齢者を超えてくると車の運転については不安が出てきます。

大学生などの若い世代にアルバイトとして担ってもらってはどうかという意見もありましたが、そもそも地域に若い世代が居住していない状況です。

活動を継続していただくためには、生活支援ボランティアだけでなく、他の活動や取組みについても当てはまることですが、活動する中でやりがいや楽しさを見つけてもらう、感じてもらうことも大事であると思います。やらされている感だけでは長続きはしないと思います。

私が携わっているサロンでは、スタッフそれぞれに役割を決めて、その役割に責任を持っていたくことで、やりがいを感じてもらえるように図っています。

●Dグループ（発表者：委員）

グループ討論をする中で、長浜市社会福祉協議会が貸出しをしている「おでかけ号」について、地域づくり協議会単位の団体等が対象であることを初めて知りました。活用が広がるように、広く周知を図って欲しいと思います。また、大型車の貸出しだけではなく、小型車なども対応いただくと、より活用の幅が広がるのではないかと思います。

また、高齢者の運転免許証の自主返納について、支援を目的とする市の施策としては、バスの回数券等の無料交付がありますが、車社会から脱却できるような、高齢者の運転免許証の自主返納を促進するような施策を期待したいと思います。

生活支援ボランティア団体の支援の案内を紙面で配布されていると伺いましたが、デジタル化が進んでいますので、スマホ教室など高齢者のデジタル化を推進していく取組みも必要であると感じました。

5. 総括

（委員）

「何のための移動か」「何のための買い物か」を先に考える必要があります。単に移動するだけであればタクシーを利用すればよいという話になります。そうではなく、交流や安心感、そういう関係や環境の中に生きていること、地域の中に住み続けることができる仕組みづくりにつながるものが大切です。

ハード面だけの支援で例を挙げますと、草津市が 10 年程前から市社協を通して地区社協に車の貸出しをされています。保険や車検は市社協が負担されているとのこと。各地区の要望に応じて車を貸出しされているそうです。

お金の話ではなく「何のためにやるのか」を考える必要があります。お互いが支え合う環境の中で「移動支援」を今後どうしていくのか、検討していく必要があります。

本日は、とても良い議論の時間であったと思います。

(委員長)

最後に委員の皆さまにお願いがございます。日頃から、それぞれのお立場で情報を収集し、また、学習をしていただきまして、地域を支えるための課題、検討につきまして、次回以降もご協力いただきますよう、お願いします。

6. その他

(事務局連絡)

本委員会の第 2 回目の開催について、詳細が決定したら案内させていただきます。

本会場に移動販売車が来ていますので、お時間の許す委員様は移動販売の様子をご覧ください。

以上